

校長室だより

週1回発行

令和2年4月22日(水) NO. 2

開校記念日から思うこと

槻木中学校は、今年で創立74年目を迎えます。

先日、4月15日は開校記念日でした。槻木中学校は、昭和22年(1947年)4月15日に開校しました。

創立50周年記念誌に開校当時の思い出が載っていました。少し紹介します。

昭和22年4月新制中学校が創立されました。学校が出来たとはいえ、終戦当時は何も無く、学校で学ぶべき教科書も全部揃っていませんでした。学校にも何も無く今、目をつぶると最初に浮かぶものは、机が人数の割には半分しかありませんでした。あとの半分は青年学校のご婦人が使っていた裁板という机で、縫い物をするときに寸法を取るものでした。教室の板の間に正座またはアグラを組んで勉強したものです。当時、ひと学級は60人前後で半分が男子で後の半分が女子でした。一週間交代で机と裁板を使いました。そのような所で勉強したことは思い出に残り、懐かしく思えてなりません。このような困難の中でスタートした槻木中学校でしたが、これまで東北中学校駅伝競走大会優勝や全国中学校駅伝大会出場、全日本吹奏楽コンクール入賞など輝かしい歴史を築いてきました。

現在、新型コロナウイルス感染防止のために全国に緊急事態宣言が発令され感染防止に努めているところです。令和2年度の槻木中学校は、4月8日の入学式、始業式以来臨時休業となっていますが、生徒の皆さんには槻木中学校の生徒であるという自覚を忘れずに一日一日目標を持って過ごして行ってほしいと願っています。

本の紹介

中学生の皆さんに校長が読んでほしい本を紹介します。

「君の友達」重松 清

少し内容を紹介します
『わたしは「みんな」を信じない、だからあんたと一緒にいるー。

足の不自由な恵美ちゃんと病気がちな由香ちゃんは、ある事件がきっかけでクラスのだれとも付き合わなくなった。学校の人気者、ブンちゃんは、デキる転校生、モトくんのことが何となく面白くない…。優等生にひねた奴。弱虫に八方美人。それぞれの物語がちりばめられた、「友だち」のほんとうの意味をさがす内容です。』

「きよしこ」重松 清

『語り手の元に1通の手紙が届く。
『テレビ番組であなたのことを見て、吃音があることに気付いた。小学校低学年の自分の息子も吃音で、いつもうつむき、元気がなく可哀想でたまらない。

息子に励ましの手紙を書いてくれないか』という内容のもの。
語り手は悩んだ末、手紙を出さなかった。かわりに、ある少年が主人公の物語を作った。これは、吃音をもつ少年の、小学校から大学生になるまでの生活と戦いの内容です。』

「走れ！T校バスケット部」松崎 洋

『中学時代、バスケ部キャプテンとして関東大会二位の実績を残した陽一は、強豪私立H校に特待生として入学。だが部内で激しいイジメに遭い自主退学する。失意のまま都立T校に編入した陽一だが、個性的なクラスメイトと出会い、弱小バスケ部を背負って立つことに。連戦連敗の雑草集団が最強チームとなって活躍する内容です。』

今回は3作品紹介しました。是非、読んでください。